通信 ともに
第68号
2019年1月10日発行
認定NPO法人ともに
住所　〒044-0053
北海道虻田郡倶知安町北３条西２丁目１－１
でんわ　（0136）55−5828
ＦＡＸ　（0136）55−5829
Ｅメール　info@npo-tomoni.com
ホームページ　http://www.npo-tomoni.com　　ブログ　http://blog.canpan.info/npotomoni/

だはしみ まめちしき

*1この日は氷点下10度にまで下がり、水蒸気がキラキラと輝くダイヤモンドダストが見えました。

今月の一枚

澄みきった空に映える冬羊蹄*1

2018年12月13日撮影

新年のごあいさつ　　理事長　小林敦子

障がい者福祉の充実と、つながる地域づくりをめざして！

新年あけましておめでとうございます。

昨年法人設立10周年を迎え気持ちを新たにしたところですが、8月の台風、9月に地震と大規模停電に遭遇し多くの課題を実感した年でした。当法人が運営する事業所に被害はありませんでしたが、今なお日常の生活を取り戻せていない方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興を祈念いたします。

今年は倶知安町でG20観光大臣会合が開かれます。新幹線工事や高速道路延伸工事が着々と進み世界が注目する一大リゾート地になってきています。華やかな話題を歓迎したい反面、障がい者にとって暮らしやすい町・地域になっているだろうか？　と見渡すと地価高騰・家賃上昇という厳しい現実があります。でも弱気になっていられません。障がい者・高齢者・みんなが明るく元気に暮らせる「つながる地域づくり」を、頭を柔らかくし町や道行政、地域と協力しながら少しでも前に進める決意を新たにしています。

本年も皆さまとともに笑顔多い一年を送れますよう祈念し新年のご挨拶といたします。

だはしみ まめちしき

*4お正月は初詣。元日や3が日に行くことが多いですが、行く時期は明確な決まりがないそうなので今からでもいかがでしょう（諸説あります）。

K.S.C. Juntos　サポーターズカップに参加

北海道ソーシャルフットボール、2018年最後の大会である第9回サポーターズカップに12月22日参加しました。障がいのある方だけでなく、障がいのない社会人、学生チームなど多種多様な11チームが参加して熱戦を繰り広げました。

私どもK.S.C.Juntosはグループリーグで４戦したものの勝利することができませんでした。これで年内の大会はすべて終了しましたが、チームはこれからも練習を続けていきます。

いつも応援ありがとうございます。今年はさらに勝ち数をあげられるよう、ケガなく上達していきます。

第９回ソーシャルフットボールサポーターズカップ
Juntosの成績

対戦相手	点数・勝敗
ひらがな　ありあんさ	●　0-3
New	●　0-8
K.S.C. Juntos United	●　0-10
Safilva B	●　0-7

写真は昨年のともにカップより

大会のポスター
（北海道精神障害者スポーツサポーターズクラブ、大澤茉莉恵さん作成 ）

精神科医　土田正一郎の

その56　無駄

そもそもこのコラム自体が無駄ではないかと思ったりもしている。しかしそんな声があったとしても聞こえないふりをしておこう。時間の無駄、お金の無駄、愛情なんて注ぐだけ無駄、そもそも愛情なんてないし…。自虐的な気分にもなったりしてもいいけれど。

いろいろな無駄に溢れたこの世界かもしれないが、この人生だけは無駄じゃない。それは間違いないのだよ。

ともに顧問（自称）

各事業報告～12月末現在

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい
契約／移行２人、B型20人
見学／０人、体験／０人

グループホーム よろこび
利用者　19人（定員22人）
見学／０人、体験／２人

◆法人会員　正会員20人、賛助会員　団体２　個人88人
◆30年度寄付金　のべ17人　1,151,075円
◆寄付物品
洗剤、筆記用具、牛乳パック、ジュース類

編集後記

今年もよろしくお願いします。昨年度当広報紙は法人活動情報はもちろん、障がい者の交通費助成問題などさまざまな内容を伝えてきました。今年も障がいの有無にかかわらず住みやすい地域になるよう、地域の課題を伝え提言をしていきます。（かわさき）

正会員、賛助会員募集中！　法人にご協力よろしくお願いします。

地域づくり委員会②～住宅難のなかで

第67号に続き、「後志圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」後半の情報交換の内容をお伝えします。

まず各市町村から、7月に提起した羊蹄山ろくの公営住宅のグループホーム（以下ＧＨ）化について進捗状況の報告があり、出席した京極、ニセコ、倶知安の各町は「町営住宅の空きはないので今ＧＨ化は難しい」と回答しました。

各機関からの情報も寄せられ、「古い一軒家を借りてＧＨにしている。今のところ住民とのトラブルはないが、入居者の行動で謝罪に回ることがある（事業者①）」、「職員に対応マニュアルを配布し配慮すると同時に町民へ広報で周知している（事業者②）」、「住宅を契約するのに保証人が必要なところが多いが、障がい者の多くはそのような関係がないので契約できない（地域づくりコーディネーター）」、「障がいを理解している大家さんは少なく、店頭で断る場合がある（不動産業者）」と課題が見えてきました。

委員からは「消防法などは自治体独自で『免除特例』を設けているところがあるので、町村と一緒に考えていかなければ」、「住む場所がないので入院を続けるのは人権侵害ではないか」、「住民の『心のバリアフリー』を目指してほしい」といった意見が出ました。

光増氏は「住宅を（障害者差別解消法にある）合理的配慮で貸すことができるよう検討してほしい。全国で空き家は増えているので、みんなで考える課題だ」と話しました。

当法人ではこの委員会をはじめ、さまざまな機会でこの課題について提案、提言していきたいと思います。みなさまのご意見、情報がありましたらお寄せください。よろしくお願いいたします。

「林福連携（りんぷくれんけい）」の可能性　就労支援部会

12月は「林福連携」、つまり林業と福祉が連携していく可能性について話し合いました。現在道により「障がい者の多様な社会参加促進事業」として林業を含めた複数の分野*2への障がい者就労を進めています。その事業の委託を受けている北海道総合研究調査会［ＨＩＴ］さんが中心に企画し、合同会社Hikobayuさんでディレクターをしておられる澤田健人（さわだけんと）さんとの座談会形式でおこなわれました。

合同会社Hikobayuさんはニセコ町にて自伐型林業（じばつがたりんぎょう）という活動をしておられます。森林組合や林業者の方との連携のもと、伐採後に残される枝葉を集めて商品（精油、樹皮クラフトなど）を製造販売しています。澤田さんは製造の過程で障がい者の方が仕事をすることができるのではないかと提案しました。具体的には精油をつくるために枝葉をトラックに積み込む作業などを挙げていました。

今林業は人手不足が大きな課題です。そのような中で障がい者の就労のチャンスが広がる可能性があるだけに、参加者はその提案に期待がふくらみ、活発な意見交換となりました。

これから林業と福祉でお互いに学びを深め、良いアイディアを出し合うことで、可能性が広がることを感じさせる部会だったと思います。

林福連携の提案をする澤田氏（写真奥右から2人目）

*2その他の分野は、①鉱業、採石業　②不動産業、物品賃貸業　③学術研究、専門・技術サービス業

障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい

ＨＴＭのみなさま、ありがとうございます！

3年前から製造部商品を販売していただいている「木ニセコ」を運営するＨＴＭ株式会社さまから11月、調理部で販売しているクッキーの注文があり、計200セットを製造しました。

従業員さまへのクリスマスプレゼントの一つということで、調理部メンバーが通常作業の合間を縫ってがんばりました。製造開始から２週間、12月23日に無事納品することができました。

納品は参加可能な調理部利用者が全員で行きました。ＨＴＭの方からは「ラッピングがとてもかわいくて良かった」とお褒めの言葉をいただきました。そして「他の従業員にもここのカフェを勧めたい」と話してくださいました。

戻った後にささやかながら慰労会を開きました。利用者からは「また挑戦してみたい」、「クッキーを売り込む営業活動もしてみたい」と積極的な声も聞かれました。

カフェの合い間をぬってクッキー作りをしているため、大量製造を短時間ですることはできませんが、もし注文したいという方はご相談いただければと思います。カフェ店内でも購入できます。ほんのりやさしい甘さでおかげさまで好評いただいているクッキーをぜひご賞味ください。

利用者・職員総出でクッキーのパッケージング作業をする。２日目にはすぐ慣れた作業をする方も。

クッキーはオートミールクッキー２種類とココアクッキーがそれぞれ３個づつ入っている。

ＨＴＭさん本社（倶知安町字山田）

除雪作業本格化

12月に入って一気に雪が降った倶知安。一日で２０センチ以上の雪が何度も降り、中旬には降雪量が平年を超えました*3。これからが雪本番の倶知安町です。農業部も本格的に除雪をしています。わっくわく周辺のマンションなどから委託され、毎日除雪に汗を流しています。

*3 12月8日は一日で33センチ降り、以降4日連続で20センチ以上を観測しました。12月27日現在の積雪は91センチです（倶知安町ＨＰより）